

防衛大学校本科第二十三期および理工学研究科 第十六期学生卒業式における訓示

(昭和五十四年三月十八日 防衛大学校)

防衛大学校第二十三期および理工学研究科第十六期の諸君は、本日、長期にわたる修練を終え、勇躍、陸・海・空の自衛官として、新しい任務につくことになりました。諸君は、誇り高い感動を覚えておられること信じます。めでたく卒業式を迎えられた諸君に、心からお祝いを申し上げます。

今日、われわれの住む地球社会は、共同体として、いよいよその相互依存の度を高めております。その成員たる各国家は、したがって、対立と抗争を戒め、相互の理解と協力によらなければ、その生存を維持することが困難になってまいりました。

わが国のように、資源と市場のほとんどを海外に求めなければならない国にとっては、世界のいかなる地域のいかなる紛争もその生存を脅かすことになりかねません。まさしく世界の平和なくして、わが国の生存はあり得ないのであります。

しかるに、国際政治は、いよいよ多元化の傾向を強め、世界経済秩序は、ますます不安定の度を高め、

局地的な武力紛争があとを断たないのが世界の現実であります。

そうした中で、わが国が名譽ある生存を確保するためには、何を措いても、世界に対する自らの責任と役割を果たし、自らの安全保障のため周到な努力が必要であります。わが国の安全保障は、防衛力を整備するとともに、経済力、外交力、文化創造力等、わが国が保有するすべての力を総合的に結集して、はじめて確保されるものであります。

すなわち、われわれは、まず第一に、節度ある質の高い防衛力を整備するとともに、これを補完する日米安全保障条約の誠実な運営を図らねばなりません。

第二に、われわれは、議会制民主政治を軸として、内政全般の秩序正しい活力ある展開を図らねばなりません。

第三に、われわれは、平和な国際環境をつくりあげ、世界経済の安定的な発展に資するための、積極的な外交努力を強めなければなりません。

こうした総合安全保障戦略の根幹をなすものは、防衛力の充実整備であります。防衛力の保持は、独立国の権利であるとともに、その義務でもあります。

われわれは、いたすらに過大な防衛力を求めるものではありません。われわれは、国力と国情と国是にふさわしい防衛力を求めております。専守防衛を目的とするわが国の防衛力は、他国に脅威を与えるものではないが、真に抑止力たり得るものでなければなりません。

もとよりこの防衛力は、近代的な装備と士気旺盛な隊員によつてもたらされるのであります。自衛隊の

中核となるべき諸君の果たすべき役割と責任は、極めて重いものがあると申さねばなりません。また、自衛隊が真に防衛力たり得るためには、国民に支持され、支援される自衛隊でなければなりません。厳正な規律と高い練度は自衛隊の生命であります。近時、国民の間に、国防に関する真剣な論議が高まり、各種世論調査の結果も国民の防衛意識の深まりを示しております。

今後、この傾向をますます定着させるためには、自衛隊の中核たる諸君は、先輩の偉業を引き継ぎ、国民に信頼され、尊敬される自衛隊づくりに邁進される所がなければなりません。

国家と国民の諸君に対する期待はまことに大なるものがあります。諸君が今後ますます自愛され、その責い任務に、一層精進努力されんことを希望して、私の訓示といたします。